

まちづくり委員会資料

等々力陸上競技場第2期整備の事業評価
(中間報告) について

建設緑政局

等々力陸上競技場第2期整備の事業評価（中間報告）について

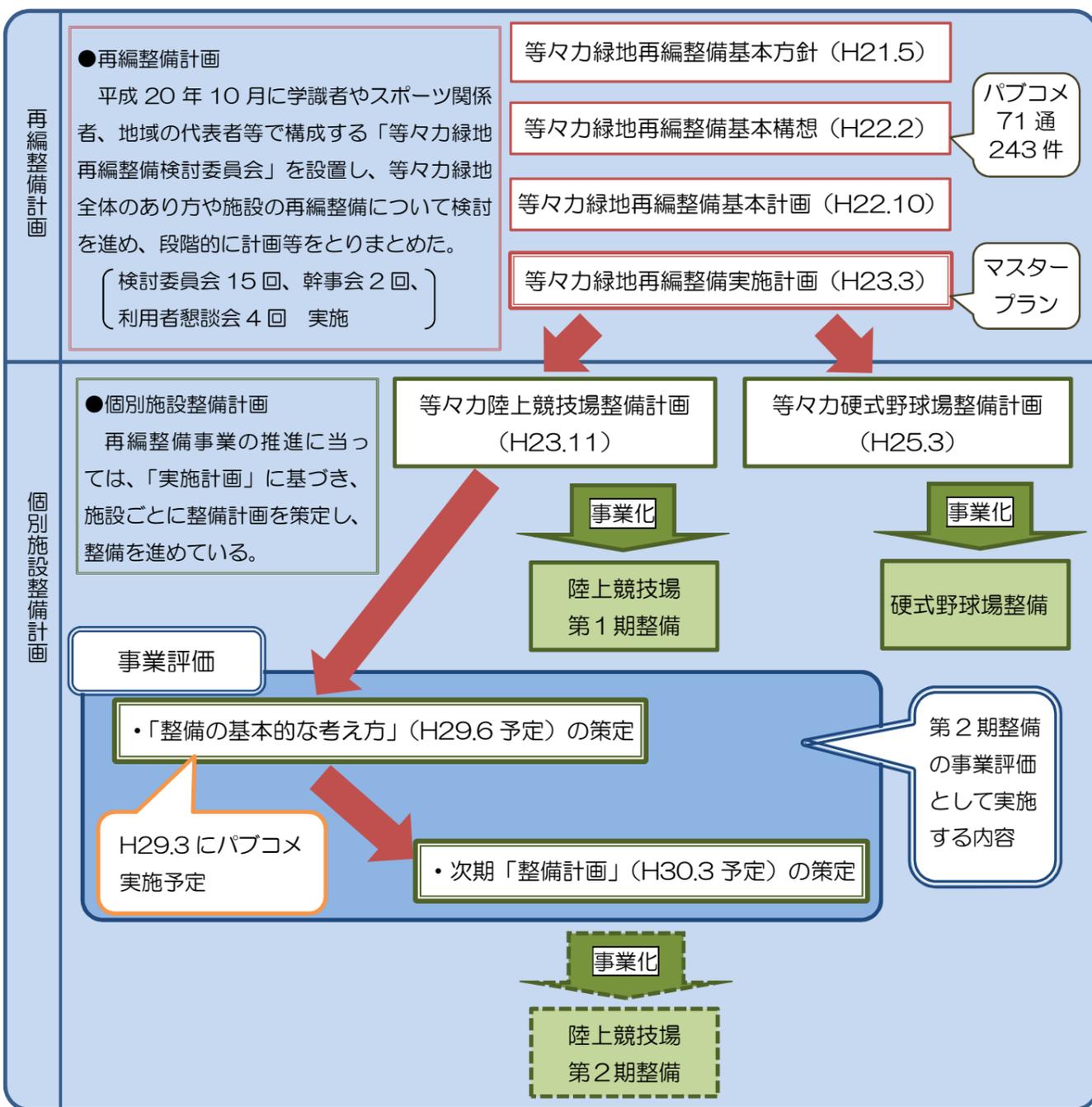
1 目的

等々力陸上競技場は、平成27年度に第1期整備（メインスタンド整備）が完了しており、第2期整備（サイド・バックスタンド整備）については、スタンドの充実、安全性の確保、観戦環境の向上などが課題となっている。

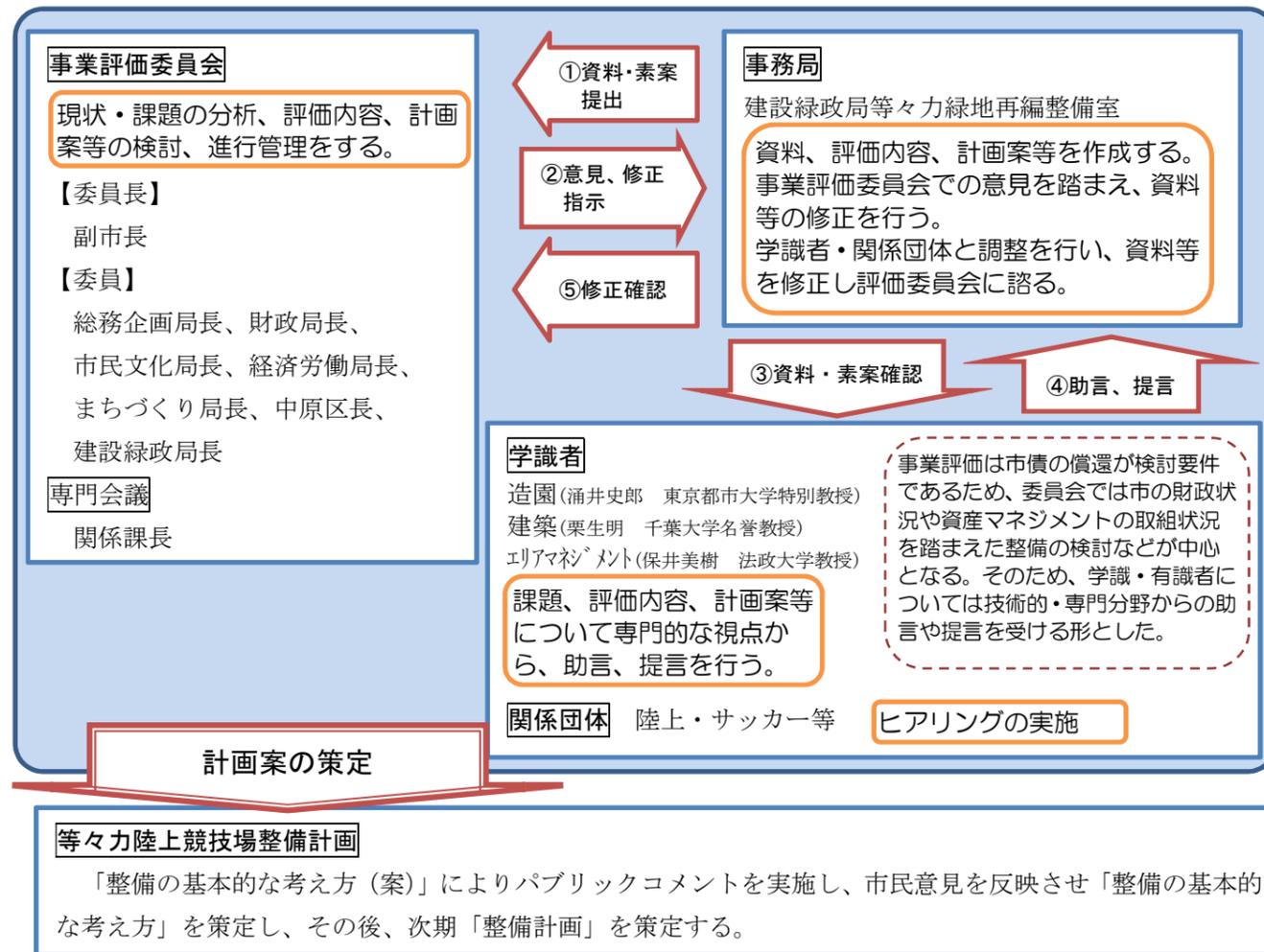
そのため、平成28年4月に事業評価委員会を設置し、第2期整備のあり方や整備手法及び事業費、工事期間、周辺に与える影響、既存スタンドを整備した際の市債の償還などを総合的に検証しながら、平成28年度末に「整備の基本的な考え方（案）」によりパブリックコメントを実施し、市民意見を反映させ、平成29年6月に「整備の基本的な考え方」を策定する。その結果を「川崎市総合計画第2期実施計画」等の策定作業と調整を図りながら、平成29年度末に次期「整備計画」を策定し、第2期整備の方向性を示していく。

2 再編整備事業における「事業評価」の位置づけ

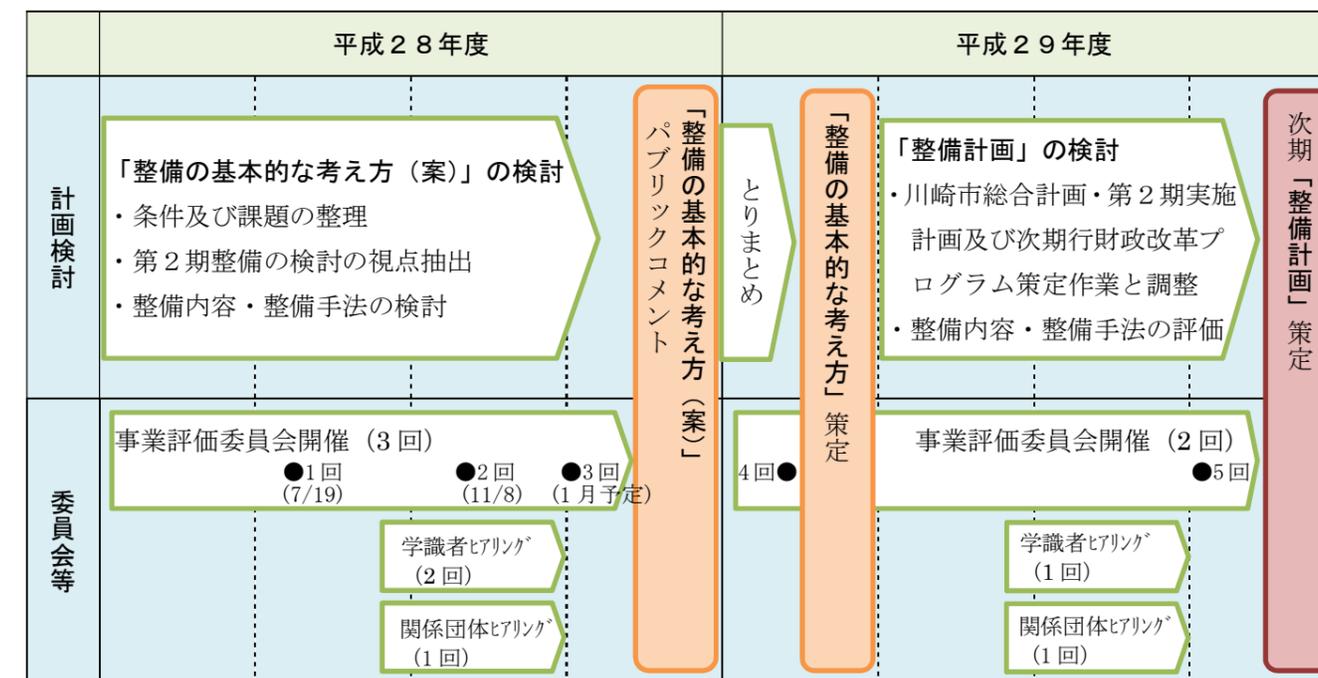
「事業評価」において第2期整備の「整備の基本的な考え方」及び「整備計画」を取りまとめ、事業化を図る。



3 事業評価の進め方



4 スケジュール

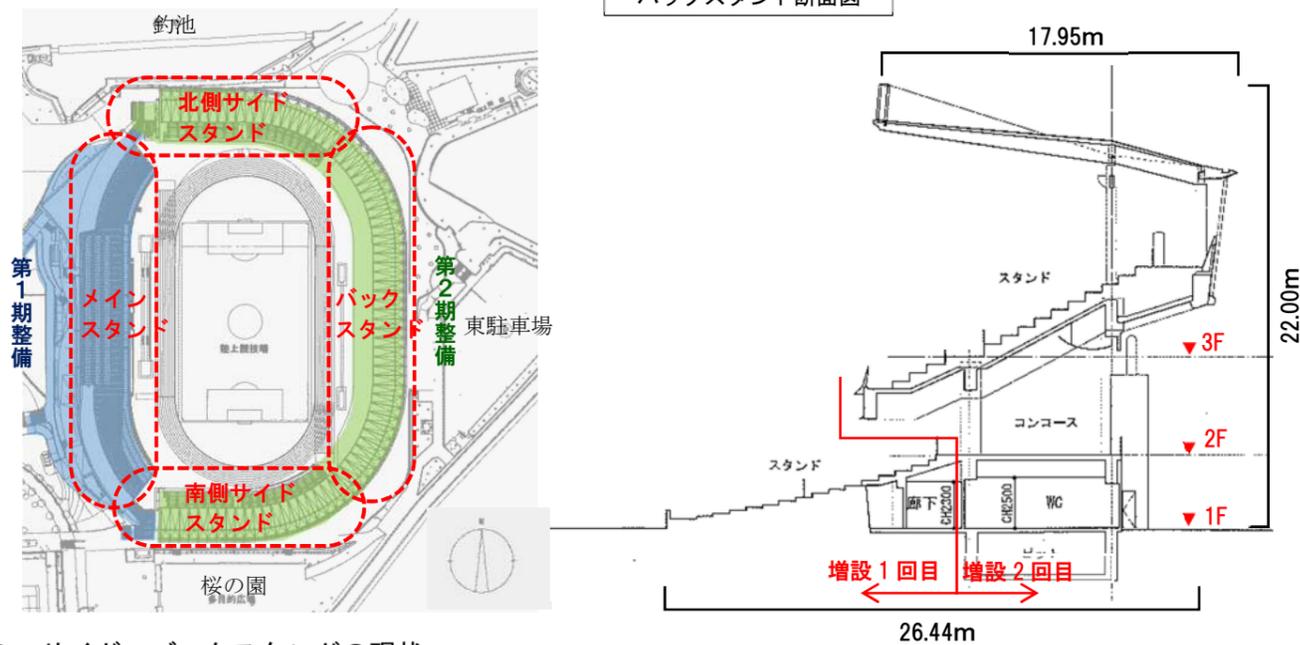


サイド・バックスタンドの現状

1. 施設概要

- 施設面積：43,957.04㎡ (サイド・バックスタンド：22,103.18㎡)
- 改修歴：昭和41年度 メインスタンド・外周芝生スタンド整備
昭和57年度 バックスタンド増設1回目(1階スタンド整備)
平成6～7年度 サイド・バックスタンド増設2回目(2層式スタンド整備)
平成27年3月 新メインスタンド整備
- 陸上競技場：日本陸連第1種公認、陸上トラック 400m×8レーン
- 収容人員：27,495人(※30,000人規模)(※Jリーグ公式届出は、26,827人)

2. 施設平面図・断面図



3. サイド・バックスタンドの現状

<p>収容可能人数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メイン：7,495人(1万人対応可) ・サイド・バック：20,000人 合計：27,495人 ・一部、競技が見えない見切席がある。 		<p>柱等により観戦できない席がある(見切席)</p>
<p>観客席の屋根</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上層スタンドのみ屋根がかかっている。下層には屋根がない。 ・鉄骨部の錆が進行している。 	<p>屋根のある上層スタンド</p>	<p>鉄骨部の錆</p>

<p>観客席</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上層スタンドは、全て背もたれ付きイスとなっている。 ・下層スタンドは、サイドはイスの無い立見席、バックは背もたれ無しイスとなっている。 ・床防水やコンクリートの劣化が見られる。 	<p>バックスタンド下層(背もたれ無しイス)</p>	<p>サイドスタンド下層(立見席)</p>
<p>バック・サイドスタンド上層(背もたれ付きイス)</p>	<p>コンクリートの劣化</p>	<p>防水の劣化</p>	
<p>コンコース</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に通路幅は狭い。特に階段部は通路幅が狭くなっている。 	<p>通常部</p>	<p>階段付近</p>
<p>来場者ゲート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドスタンドとバックスタンドのゲートに屋根が無いので、雨の日はテントを設置して手荷物検査等を行っている。 	<p>サイドスタンド7番ゲート</p>	<p>バックスタンド10番ゲート</p>
<p>ユニバーサルデザイン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・下層スタンドコンコースに車イス席がある。車イス席は、前の1階席の観客が立つと見えにくい。 ・サイド・バックスタンドにはエレベーターがない。 ・サインをはじめ、ユニバーサルデザインに配慮していない。 	<p>車イス席</p>	<p>サイン</p>
<p>トラック・フィールド</p>	<p>走路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・400m×8レーン、レーン幅1.25m (現状のスタンドでは9レーン化は困難、部分改修が必要) 	<p>トラック・フィールド(北側)</p>	<p>トラック・フィールド(南側)</p>

サイド・バックスタンドに関わる課題及び検討の視点

1 条件及び課題の整理

関係法規・要望等	項目	対応が必要な主な条件・課題	適合状況	備考	適合するための改善策		
					短期対応が可能なもの	中長期対応が可能なもの	
法令等	(1)建築基準法	用途規制 第一種中高層住居専用地域	○※1		-	-	
		高度地区 第2種高度地区(最高高さ15m、北側制限7.5m+1.25/1) ※メインスタンド建築高29m	○※1		-	-	
	(2)都市公園法	公園敷地面積に占める建築面積割合 公園敷地面積に占める運動施設割合	○	絶対条件	-	-	
(3)その他関係法令	その他関係法令	消防法、建築基準条例、多摩川風致地区(特別地区)	○		-	-	
基準等	(1)2016スタジアム検査要項(Jリーグ)	観客席の屋根	○※2	絶対条件	不可能×	可能○	
	(2)2020スタジアム検査要項(案)(Jリーグ)の主要な項目	収容可能人数	入場可能数 J1:35,000人以上確保すること	×	現時点では検査要項(案)ではあるが、本格的な施行があった場合には、Jリーグのスタジアム検査に通らず、2020年からJリーグで使用できなくなる想定される。	不可能×	可能○
		観客席の屋根	全ての観客席を屋根で覆うこと	×		不可能×	可能○
		観客席の個席化	全ての席を個席化すること	×		不可能×	可能○
		座席の幅	座席幅は最低45cm確保すること	×		不可能×	可能○
		トイレ	最大入場可能数に見合う数を備えること(女性1,000人につき20室、男性1,000人につき5室+小便器10台、洗面台は女性1,000人につき7台、男性1,000人につき5台)	×		不可能×	可能○
		エレベーター	車椅子観客用、管理運営用など	×		不可能×	可能○
	(3)AFCスタジアム規則(アジアサッカー連盟)	観客席の個席化	背もたれが30cm以上ある個席以外のACL(アジアチャンピオンズリーグ)での使用不可(2017~)	×※3	絶対条件	可能○	可能○
	(4)日本陸連競技規定(第1種公認)(日本陸連)	走路	レーン幅1.22m又は1.25m、8又は9レーン(新設の場合)	○		可能○	可能○
		雨天走路	(メイン又は)バックスタンド側に必要	○		可能○	可能○
団体等要望	(1)第1種陸上競技場公認検定結果(日本陸連)	走路	×	絶対条件	可能○	可能○	
	(2)陸上競技協会等の要望	走路の9レーン化	×		不可能×	可能○	
	(3)ラグビーフットボール協会等からの要望	ラグビーフットボールの使用	×		可能○	可能○	
	(4)全面改修を推進する会からの要望書	収容可能人数	観戦できる席数を増やす	×		不可能×	可能○
		観客席の観戦環境向上	立見席、見切席やスタンドの勾配が緩い箇所があり、快適に観戦できない席がある	×		不可能×	可能○
		来場者の動線	全体的にコンコースの幅が狭く、大変混雑してスムーズな移動ができない。特に、階段部はコンコースの幅が狭く、階段下へ転落の危険性がある	×		不可能×	可能○
		施設の老朽化	柵、手すり、音響、映像システム、監視カメラの老朽化 床のひび割れ、雨漏り、水溜り、デッキ下耐火皮膜の剥離が見られる	×	任意条件	不可能×	可能○
		部屋、倉庫の不足	関係者室や倉庫等が不足している	×		不可能×	可能○
		トイレの不足	収容可能人数に対応して、トイレの数が少ない	×		不可能×	可能○
		ユニバーサルデザイン	場内にEVがなく、身体障害者の移動や観戦場所が限定される	×		不可能×	可能○
		来場者ゲート	ゲートに屋根がなく、テントを設置して対応している	×		不可能×	可能○
	(5)近隣からの要望	強風が吹き抜けるコンコース	場外からの風の影響を受けやすい	×		不可能×	可能○
		スタンド内階段	段差解消のため小段が設けられており、横方向の移動には危険である	×		可能○	可能○
		競技開催に伴う騒音	大規模イベントの開催に伴いスタジアムから公園隣接地に騒音の低減	×		不可能×	可能○
	魅力向上	スポーツ・ノーマライゼーション	競技者や観戦者など、誰もが利用しやすく魅力的な施設とする				
日常利用できる施設の充実		交流拠点として健康をテーマとしたプールの複合化					
機能の向上		ICTなど管理・運営・魅力の向上を図る機能の充実					
駐車場の再編		来場者増加を見据え、緑地内の駐車場の再編					
環境への配慮	省エネルギー・資源の有効活用	エネルギー消費や環境負荷の低減と資源を有効活用する施設とする					
	公園との調和	公園内に相応しい、緑と調和する景観に配慮した施設とする					
防災対策	震災対策	災害時の住民の一時避難できる施設、防災備蓄倉庫の整備					
	水害対策	浸水に強い施設とする					
工期期間中の施設運営	陸上・サッカーへの影響	陸上やサッカーの運営に支障のないように工事を行う					
	工期の短縮	工事期間の短縮を図る					
	周辺への影響	陸上競技場以外の周辺への影響を最小限に抑える					
財源対策	イニシャルコスト	施設整備にかかる費用の抑制					
	市債償還	既存施設整備時の市債の前倒し償還の必要性					
	維持修繕費	施設の維持修繕にかかる費用の抑制					

「適合状況」欄の凡例

- : 適合しているもの。
- × : 適合していないもの。
- ※1 : 法令許認可等が得られているもの
- ※2 : 新設及び大規模改修を行う場合は、原則として全ての観客席を屋根で覆うこと。
- ※3 : 既存のサイド・バックスタンド1階席は立見席及び背もたれがない席のため、使用できなくなる。

2 課題改善に向けた第2期整備の検討の視点抽出

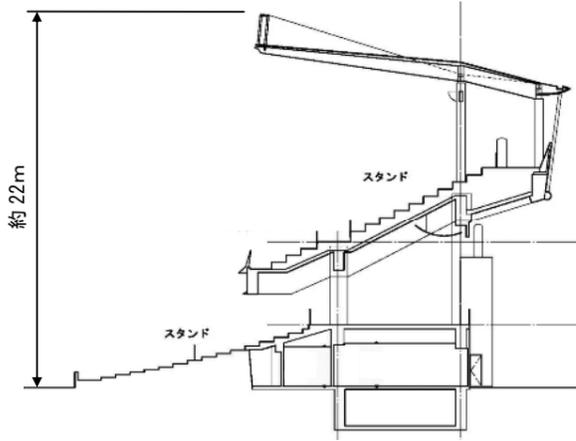
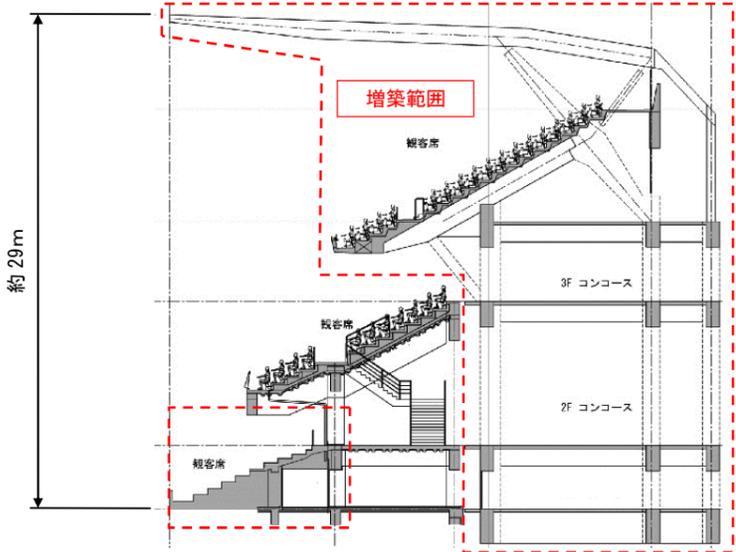
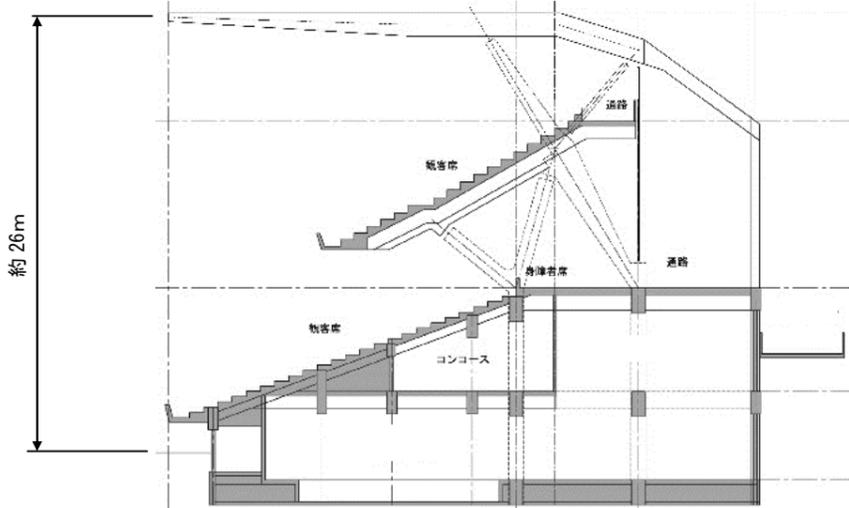
《比較項目》	《比較の視点》	《内容》
1. 基準等の課題	収容可能人数	J1リーグで求められる入場可能数35,000人を確保できるか
	観客席の屋根	観客席全体に屋根をかけることができるか
	観客席の個席化 座席の幅	入場可能数35,000人を確保した上で、観客席の個席化が可能か 個席は座席幅を45cm以上とすることができるか
2. ユニバーサルデザイン等への配慮	快適な観戦環境	観客席にある程度の勾配を持たせピッチを見やすい環境をつくれるか
	安全な来場者動線の確保	スムーズで安全な来場者動線が確保できるか
	ユニバーサルデザイン	全ての人が利用しやすい、エレベーターの設置やバリアフリーに配慮した施設となるか 親子連れや外国人など、多様な利用者に配慮した施設となるか
	スポーツ・ノーマライゼーション	高齢者や障害者の競技者や観戦者に配慮した施設ができるか
3. 施設運営の安全性の確保	施設の老朽化への対応	床のひび割れや雨漏り、水溜り、音響映像などを解消することができるか
	機能の充実・魅力の向上	機能の向上 ICTなど管理・運営や魅力の向上に繋がる機能ができるか 走路の9レーン化 走路の9レーン化ができるか
5. 環境への配慮	省エネルギー 資源の有効活用	LED化や壁面緑化などにより省エネルギー化、環境負荷の低減が図れるか 太陽光や地中熱、雨水などの資源の有効活用を図れるか
	公園との調和	公園内に相応しい、緑と調和する景観に配慮した魅力的な施設にすることができるか 近隣への騒音対策ができるか
	施設の複合化 地域の賑わいの創出	健康増進を目的としたプールをスタンド下部に併設することができるか 地域の人が日常的に交流し、利用する施設ができるか
6. 防災対策上の課題	震災・水害対策	災害時に活用できるか 浸水に対応した構造とすることができるか
	7. 工事に伴う施設運営上の課題	陸上・サッカーへの影響 陸上競技やJリーグ等の運営に支障のないように工事を行うことができるか 施設整備に係る工期をいかに短縮することができるか
8. 整備に向けた財政上の課題	周辺への影響	陸上競技場以外の周辺への影響をいかに少なくすることができるか
	イニシャルコスト	施設整備にかかる費用をいかに抑えることができるか
	維持修繕費 市債償還	施設を維持するための維持修繕費をいかに抑えることができるか 既存施設の市債償還への影響をいかに少なくすることができるか

検討の視点抽出

学識者の主な助言・提言
 ・公園の魅力づくり・ユニバーサルデザイン等の視点についての助言・提言
 関係団体の主な意見・要望
 ・整備内容・工事の条件等についての意見・要望

今後の整備手法の比較検討イメージ

課題改善に向けた第2期整備の検討の視点などを整理し「整備の基本的な考え方」（パブリックコメント実施）として取りまとめ、以下の3つの整備手法について「整備の基本的な考え方」に基づく評価項目を定めた「事業評価シート」を作成し、総合的に比較検討を実施する。その評価（検証）結果を平成29年度に策定する次期「整備計画」に反映していく。

		イメージ図	サイド・バックスタンドに関する基本事項
整備手法	現状維持		<p>【収容可能人数】 30,000人規模（メイン10,000人規模、サイド・バック20,000人規模）</p> <p>【観客席の構造】 2層式スタンド</p> <p>【観客席の屋根】 上層は屋根が架かっているが、下層は屋根が架かっていない。また、屋根の鉄骨部の錆や一部の雨漏りなど、施設の老朽化が見受けられる。</p> <p>【観客席の形態】 上層は背もたれ付きの個席であり、下層はサイドスタンドが立見席、バックスタンドが背もたれの無い個席である。</p> <p>【見やすさ】 下層の観客席の傾斜角度が緩く、サイトライン（可視線）が確保されていない。</p> <p>【来場者動線】 コンコースの幅が狭く、特に階段があるところが狭く、混雑する箇所がある。</p> <p>【ユニバーサルデザイン】 エレベーターやサイン等がない。</p>
	改修イメージ		<p>【収容可能人数】 35,000人規模に対応可能（メイン10,000人規模、サイド・バック25,000人規模）</p> <p>【観客席の構造】 3層式スタンドであり、既存の2層目部分を活用し、1層目・3層目を増築する。</p> <p>【観客席の屋根】 屋根は観客席全体に架けることが可能である。</p> <p>【観客席の形態】 増築範囲の1層目・3層目は背もたれ付きの幅のある個席化が可能である。（2層目は既存の背もたれ付きの個席を使用。）</p> <p>【見やすさ】 増築範囲の観客席に傾斜角度をつけることにより、サイトライン（可視線）の確保など観戦環境の向上を図ることが可能である。</p> <p>【来場者動線】 増築により2・3階のコンコースが広がり、スムーズな移動が可能となる。</p> <p>【ユニバーサルデザイン】 エレベーターやサイン等、ユニバーサルデザインへの対応が可能である。</p>
	改築イメージ		<p>【収容可能人数】 35,000人規模に対応可能（メイン10,000人規模、サイド・バック25,000人規模）</p> <p>【観客席の構造】 2層式スタンドであり、メインスタンドと同様の形態とすることが可能である。</p> <p>【観客席の屋根】 屋根は観客席全体に架けることが可能である。</p> <p>【観客席の形態】 全席を背もたれ付きの幅のある個席化が可能である。</p> <p>【見やすさ】 全ての観客席に傾斜角度をつけることにより、サイトライン（可視線）の確保など観戦環境の向上を図ることが可能である。</p> <p>【来場者動線】 コンコースを広くとることにより、スムーズな移動が可能となる。</p> <p>【ユニバーサルデザイン】 エレベーターやサイン等、ユニバーサルデザインへの対応が可能である。</p>

※現在メインスタンドは10,000人規模の施設であるが、バラエティシートの設置等により7,495人の収容人数としている。